

第168回青森県立図書館協議会 会議概要

1 期日

令和5年7月18日（火）

2 開会

午後1時30分

3 閉会

午後3時

4 場所

青森県立図書館（青森市荒川字藤戸119-7）4階 集会室

5 議題

- (1) 令和4年度組織目標に対する評価について
- (2) 短期行動指針の進捗状況について
- (3) 第75回北日本図書館大会青森大会について
- (4) その他

6 出席者等

(1) 出席委員の氏名

大里 公子委員、須藤 紀子委員、浜田 祐子委員、秋元 宏宣委員、
澤田 尚委員、本間 維委員、佐藤 宰委員

(2) 欠席委員の氏名

竹浪 廣美委員、松井 京子委員

(3) 出席した職員

仁和館長、高井副館長、油布奉仕課長、乳井近代文学館室長
企画支援課：奈良岡副課長、松川副課長
奉仕課：原田副課長、木村副課長、清水副課長
近代文学館：石岡副室長
教育庁生涯学習課企画振興グループ：北澤社会教育主事

議題に対する委員の主な意見・要望等

1 令和4年度組織目標に対する評価について

○委員

組織目標は、長年県立図書館が行ってきた業務に対する目標に、時代時代の課題に対応するために取り組むべき業務に対する目標を加えながら設定したものだと思う。事務局の組織目標に対する評価を聞いて、いくつか課題はあるが、概ね目標は達成できている状況であると分かったが、館長や実際に業務に従事している各副課長は、現状をどのように捉えているのかお伺いしたい。

■事務局

4月から館長として着任し、実際に勤務してみて、図書館では本の貸出だけでなく、色々なサービスを行っているということを知って驚いている。図書館の役割として、本の貸出のほか市町村への支援や各種研修、また、新たに取り組んでいる電子書籍等デジタル化への対応など、図書館としての不易な部分と流行の部分を的確に捉えながら様々なサービスに取り組んでいると感じている。

○委員

副館長も奉仕課長も概ね同様の意見かと思うが、長年図書館に勤務している副課長の意見をお伺いしたい。

■事務局

資料収集については、課題として書庫の狭隘化があり、書庫が狭くなってきたことで資料の収集範囲を絞るわけにもいかない中、収集方針を見直したことで、県立図書館として収集すべき資料は収集できていると思う。また、令和3年度から電子書籍も収集しており、利用者のニーズに応えられる体制ができつつあると感じている。

本の貸出等、利用者への直接サービスについては、正直なところ不足している部分があると感じている。そのため、職員全員がきちんとした一定のサービスを利用者に提供できるように少しずつ取組んでいるところである。

レファレンスについては、以前までは調べものがあたら図書館に聞く、図書館に来て本や資料を調べるのが主な方法であったが、インターネットが普及し、今は調べものがあると、まず、パソコンやスマートフォンで調べるという時代になっている。このような中で、以前のように質問を受けて直接回答するということに加え、調べものに使えるような資料を用意し、利用者にPRするなどの取組にも力を入れる必要があると感じている。また、電子書籍についても調べものに活用していただけるよう事典類を選書しており、利用者が県立図書館に来館しなくても調べものに取り組めるような環境づくりにも力を入れているところ。

市町村や学校に対する支援については、それぞれに事情があり、県立図書館で支援

したいことを思うようにできていない部分もあるが、皆で協力して進めて行けるような環境が作れば良いと感じている。さらに、市町村と学校への支援のバランスが上手くとれていない部分が課題であると感じている。

○委員

それぞれの部署でそれぞれの課題を把握されていることが分かった。このような課題を解決する方策を検討するために、それぞれの部署の職員のみで議論し合い解決策を検討するのではなく、部署を超えて議論することが必要だと思う。それぞれの部署の職員のみで目の前にある課題解決について検討するだけだとダイナミックな解決策は出てこないと思う。もっと思い切ったことをやっても良いと思う。

○委員

昨年度、今年度といくつか新しいサービスを開始しているが、利用者への新しいサービスの周知方法について伺いたい。例えば会議資料にパスファインダーの作成・提供とあるが、会議資料を見て初めて知ったところである。ウェブサイトを見てもどこにも掲載されていない。このような新しいサービスについてどのような方法で周知していくのか伺いたい。

■事務局

パスファインダーについては、現在、インターネット上では公開しておらず、リーフレットを館内に置いている。インターネット公開するには調整が必要であり、年度内を目途に作業を進めている。インターネットで公開する際は、ホームページ等でPRしていきたいと考えている。

○委員

インターネット上に公開すると利用者が多くなりすぎる等公開できない特別な事情がないのであれば、図書館内でサービスの提供が始まった時点でこのようなサービスがありますという周知はしても良いのではと思う。

■事務局

御意見を踏まえて検討する。

○委員

組織目標について、それぞれ目標値を定めており、この目標値は前年度の達成状況を見て今年度の数値を設定していると思うが、もっと大胆に目標値を定めても良いと思う。目標値を高く設定すれば、今までのやり方だと達成できない。そうであれば、今までのやり方を一回ゼロにして、新しいやり方を考えることになると思う。高い目標値を達成するためにはどういうやり方があるのかということ、皆で考えて欲しい。こんなに職員がいるのだから良いアイデアはどんどん出るはずなので、是非とも頑張ってください。

2 短期行動指針の進捗状況について

○委員

市町村立図書館と学校図書館の支援について、支援は主に学校図書館アシスト事業プラスにおいて進めているようだが、この事業について、支援をして欲しいと依頼した場合、どのような支援をしてもらえるのか学校関係者には伝わっていないので、もっと周知していただきたい。支援して欲しい学校はたくさんあると思うが、支援を依頼したことで忙しくなることを懸念し、なかなか支援を依頼しにくい学校もあると思うので、支援を依頼したら具体的にどのような支援をし、学校側で何をしなければならぬのか分かるようにして欲しい。

■事務局

小中学校への周知については、各市町村教育委員会を介して周知することとなるが、学校にあまり周知されていないということであれば、周知の方法について検討したい。

学校図書館アシスト事業プラスは、学校から事前に提出された課題等に対して、県立図書館が助言をするというもの。そのほかに市町村図書館、学校図書館に対するサービスとしては、蔵書の貸出がある。例えば学習支援セットの貸出があり、これは、学習に役立つテーマがいくつかあり、必要な時期・テーマを希望いただければ、県立図書館でテーマに沿った図書セットを貸し出すというもの。支援としては、運営に関する助言と本の貸出の二点となる。

○委員

学校図書館アシスト事業プラスや学習支援セットの貸出については分からなかったもので、もっとそのような取組を周知していただきたい。

また、資料では平内町立図書館の支援を行うとなっている。昨年度、黒石市立図書館が完成し利用したが、本が少なかったり、本の並べ方をもう少し工夫できるのではと思った。新しい図書館に対して、今後、支援は考えていないのか。

■事務局

図書館を新しく建てるとか、システムを更新する時は、県立図書館も一緒になって考えており、黒石市立図書館建設の際も、当館の職員と黒石市の職員と協議し、どのような図書館にしていくか助言等をしたところ。

これから、図書館の機能を高めるといった取組を予定している市町村立図書館があると聞いているので、これらの図書館についても県立図書館としてより良い図書館になるよう助言していきたいと考えている。

○委員

質問ではないが、今日、会議が始まる前に児童室を見てきた。子どもが自分で蔵書を検索できるシステムがあり、自分で調べている光景を見てすごく良いと思った。そのようなシステムが市町村立図書館にもあれば、本に親しむ機会がもっと増えるのではないかと思った。パソコンや機材等は各市町村で準備しなければならないのか。県

立図書館は色々充実しているのですが、市町村立図書館も機器等含めて充実すれば良いと思った。

私は20年くらい放課後子ども教室に関わってきたが、子ども達に本を読むよう勧めても漫画本は読むけれどもなかなか本は読まない。子ども達にもうちょっと本を読んでもらうよう何か工夫ができないかと色々考えたが、子ども達にとって本よりもおもしろいものがいっぱいあるのでそちらの方を選んでしまう。コロナ禍で外に出てなかなか活動できない期間に、もっと子ども達が図書館を利用するような工夫ができたなら、子ども達が本に親しむチャンスとなったのではと思っている。市町村立図書館がもっと充実したら子ども達も図書館に足を運ぶ機会が増えるのではないかと思う。

■事務局

図書の購入を含め、国から地方交付税交付金が各自治体に配分されており、その用途については、各自治体の判断で決めているところ。県立図書館としては、図書館に関する機器やシステムについて、このような機能があるなどの紹介や助言はできるが、予算に関しては、各自治体の判断となる。

○委員

学校関係者の委員にお聞きしたい。県立図書館が学校図書館の支援事業を始めてから10年以上経過しており、また、シンポジウムを実施して5年以上経過している。この間、学校や市町村教育委員会で学校図書館に対する取り組み方、対応の仕方等、変化してきているのか伺いたい。

○委員

特に変化というのを感じていない。色々な理由があるが、学校では図書館を担当する司書教諭はいるものの、学級担任と兼務しているため図書館業務になかなか従事できない。司書がいる学校で勤務したことがあるが、司書がいれば学校の図書館は充実し、色々な情報を得ることができた。今勤務している学校では、図書館ボランティアがいるので、本を整備してくれたり、欲しい本を見つけてくれたりする。県立図書館が学校図書館に色々支援してくれているが、司書やボランティア等、マンパワーがないと、なかなか学校図書館は変わっていかないのかなと感じている。

話は変わるが、子ども達が図書に一番触れ合う場面は学童保育の時間だと思っている。学童保育はゲームを持って行ってはだめだし、テレビもないため、宿題をしたり、本を読んだりして過ごすことになるので、そういう場所で図書が充実してくれればと思うが、なかなか着手できないのかなと感じている。他県では学童保育に本の貸出をしているところがあると聞いたが、そのような取組を県や市町村立図書館で進めてもらえれば、子ども達が落ち着いて本に触れる機会になると思う。

○委員

調べ学習、探究学習で図書室を利用する機会はあまり変わっていないのか。

○委員

図書室は利用しているが、一昨年から一人一台タブレットが導入されたことから、そちらで調べている。ただ、タブレットだと調べたつもりになっているだけのようない感じがしており、図書や図鑑で調べることの大切さを最近感じている。

○委員

昨年度この会議に出席し、初めて県立図書館で学校図書館に支援しているということが分かった。支援をして10年以上経過しているとのことだが、私は分かってなかったもので、もっと分かりやすい形で学校に広報していただきたい。県立図書館の支援で学校図書館がどう変化したかについては、回答できないが、図書館の利用は凄く大事だと思っている。先ほど、タブレットの話があったが、視覚で情報を得るだけではなく、本を見て、読んで、メモしてそれを自分のものにするということは大事なんだと思う。

話しは変わるが、五戸町の図書館が指定管理者制度になった。先日、館長と話したが、今までは長く勤務している司書のやり方をそのまま踏襲するという体質であったが、指定管理になったことで、今までやってきてない方法でもやってみようという雰囲気になってきたとのことであった。今後、県立図書館の支援を受けながら少しずつ改革できればいいなと思っている。

3 第75回北日本図書館大会青森大会について

○委員

大変意欲的な大会テーマを設定したと思う。県立図書館も地域社会への貢献ということを意識し活動していただきたいと思う。本県で地道に地域貢献している市町村の図書館があり、これまでも元気な図書館を作ってきたので、そのような図書館の取組を紹介するなどして大会を運営していただければありがたいと思う。

4 その他

○委員

会議が始まる前に近代文学館の特別展を見てきた。馬場のぼるさんの絵本の展示であったが、とてもすばらしかった。このような展示を例えば、県立図書館に来られない県民のために、他の市町村で展示できないのかと思った。昨年度、県立郷土館が改修のため、休館していることから、県内の各施設で出張展示を実施しており、五戸町でも郷土館があるので、そこで展示していただいた。集客があり、色々な人に興味を持って見ていただいたので、きちんと展示できるという条件は必要だと思うが、他の市町村で展示が見られたらすばらしいという感想を持った。

■事務局

企画展示について、他の市町村で実施できるのか今まで考えたことがなく、新たな発見をしたという思いである。今回の展示のテーマである絵本については、出版社か

ら借りているものもあるため、権利の問題等があり、なかなか難しいところだが、これからの展示において、様々な場所出張展示をすることができたら、今まで以上に幅広く県民に近代文学館で所蔵している資料をお見せできる機会の創出になると思う。

○委員

図書館では、従来の仕事にプラスしてやらなければならない仕事が増えている。例えば、電子書籍を導入した場合、電子書籍の選書という仕事が増える。それで、従来やっていた仕事を減らせるのかという減らすことはできないということがどの図書館でもあると思う。当館でも同様の事態が起きている。当館では、学校支援に力を入れており、学校の図書室の整備、移動図書館として子ども達に本の貸出しをするなどすることで、すごく充実したサービスができていますが、その一方で選書時間をとれなくなる等、全ての業務に十分時間を費やせなくなっている。県立図書館では電子書籍など新しいサービスを実施しているが、どのようにして対応しているのか伺いたい。

■事務局

電子書籍の導入に当たり、電子書籍の選書業務が増えたが、その代わりに削った仕事はない。当館で選書の基準を見直したことで、受け入れする資料の数が少なくなり、それに関する業務が少し減ったことから、電子書籍の導入にも対応できている。また、令和3年度に図書館システムを更新した際、データ入力効率化を図ったことで従来の業務の軽減になっている。

○委員

委員の図書館では、ボランティアの方が業務の補助をしているのか。

○委員

読み聞かせのボランティアがいるだけである。業務の補助としてボランティアを受け入れた場合、業務ができるようになるまで時間がある程度必要であるため、ボランティアの受け入れに踏み込めないでいる。

○委員

地域で図書館を育てていこう、作っていこうとした場合、図書館職員だけでは限界があると思う。外部の方、ボランティアの方など周りの人を取り込みながら活動の範囲を広げていく、サービスの範囲を広げていく、そういう中で地域に根差した施設になっていくと思う。地域の中で育つ施設になるためにはこういった取組が必要になると思う。